

# SONIC CITY

2024 SERIES

7:00pm, May 17th (FRI),  
2024

143

ソニックシティ 2024 シリーズ 第 143 回さいたま定期演奏会  
2024年 5月17日(金) 午後7時開演 / ソニックシティ 大ホール

## 第143回さいたま定期演奏会 日本フィルハーモニー交響楽団

シヨスタコーヴィッチ

### チェロ協奏曲第2番 ト短調 op.126 (約33分)

*Dmitri SHOSTAKOVICH: Concerto for Violoncello and Orchestra No.2 in G-minor, op.126*

～休憩(20分)～

シヨスタコーヴィッチ

### 交響曲第10番 ホ短調 op.93 (約57分)

*Dmitri SHOSTAKOVICH: Symphony No.10 in E-minor, op.93*

指揮：**井上道義**

Conductor: INOUE Michiyoshi

チェロ：**佐藤晴真**

Violoncello: SATO Haruma

コンサートマスター：**田野倉雅秋** [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：**門脇大樹** [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

#### 主催

公益財団法人埼玉県産業文化センター／さいたま市／公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

#### 後援

埼玉県／埼玉県教育委員会／さいたま市教育委員会／埼玉県吹奏楽連盟

#### 協賛

株式会社タムロン

#### 表紙作品提供

埼玉県立新座総合技術高等学校 デザイン専攻科 竹下 昂太郎

作品名「音響と空間」

作者コメント「オーケストラの暗く静かな空間で弦楽器の音が反響したり、指揮者によって楽器ひとつひとつがまとめられ美しい音色が奏でられていく様子をイメージし、勢いのあるタッチや色使いで表現しました。」

**【アンケートのお願い】** 今後のソニックシティ主催公演の参考のため、アンケートへの協力をお願いいたします。アンケートにお答えいただきました方の中から抽選で3名様に本日の出演者・井上道義氏、佐藤晴真氏のサイン色紙をお送りいたします。右の二次元コードより、スマートフォン・タブレットからお答えください。(所要時間約5分)



▶公演終了時、カーテンコールの写真撮影が可能になりました。撮影はスマートフォン・携帯電話のみ、自席にご着席のまま行い、動画の撮影はご遠慮ください。是非、コンサートの感動を多くの方と分かち合ってください。SNS等への投稿の際は、#ソニックシティの追加をお願いします



©Yuriko Takagi

## 指揮：井上 道義

1946年東京生まれ。桐朋学園大学で齋藤秀雄氏に師事。1971年グイド・カンテルリ指揮者コンクール優勝。ニュージーランド国立交響楽団・首席客演指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団・音楽監督、京都市交響楽団・音楽監督/第9代常任指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢・音楽監督、大阪フィルハーモニー交響楽団・首席指揮者を歴任し、斬新な企画と豊かな音楽性で一時代を切り拓いた。2007年には日露5つのオーケストラとともに「日露友好シヨスタコヴィッチ交響曲全曲演奏プロジェクト」を行い、音楽・企画の両面で大きな成功を収めている。このプロジェクト以降、日本におけるシヨスタコヴィッチの演奏会は一気に増加しており、井上はその最大の功労者とも言われている。2014年4月 病に倒れるが、同年10月に復帰を遂げる。

全国共同制作オペラ《フィガロの結婚》、大阪国際フェスティバル『バーンスタイン：ミサ』、全国共同制作オペラ《ドン・ジョヴァンニ》、『井上道義：A Way from Surrender ～降福からの道～』などをいずれも総監督として率い、既成概念にとらわれない唯一無二の舞台を作り上げてきた。2024年9～11月には、全国共同制作オペラ「ラ・ボエーム」が7箇所8公演（東京、宮城、京都、兵庫、熊本、石川、神奈川）にて予定されている。

2010年「平成22年京都市文化功労者」、社団法人企業メセナ協議会「音もてなし賞」、2016年「渡邊暁雄基金特別賞」、「東燃ゼネラル音楽賞」、2018年「大阪府文化賞」「大阪文化祭賞」「音楽クリティック・クラブ賞」、2019年NHK交響楽団より「有馬賞」、2023年「第54回サントリー音楽賞」を受賞。現在、オーケストラ・アンサンブル金沢桂冠指揮者。2024年12月30日に指揮活動を引退する。



©Seiichi Saito

## チェロ：佐藤 晴真

実力・人気を兼ね備えた若い世代を代表するチェリスト。2019年、長い伝統と権威を誇るミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門において日本人として初めて優勝して、一躍国際的に注目を集めた。18年には、ルトスワフスキ国際チェロ・コンクールにおいて第1位および特別賞を受賞している。ほかにも日本音楽コンクール第1位および徳永賞・黒柳賞、ドメニコ・ガブリエリ・チェロコンクール第1位など多数の受賞歴を誇る。すでに国内外のオーケストラと共演を重ねており、室内楽公演などにも出演して好評を博している。NHKテレビ、NHK-FMにもたびたび出演。19年には、本格デビューとなるリサイタル公演を成功裡に終える。20年11月、名門ドイツ・グラモフォンよりデビューアルバムとなる『The Senses～ブライムス作品集～』をリリース。23年4月には、サード・アルバム『歌の翼に～メンデルスゾーン作品集』をリリースし話題を集めている。ベルリン芸術大学在学、イェンス＝ペーター・マインツ氏に師事。20年、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第30回出光音楽賞受賞。21年度文化庁長官表彰に選出。22年、第32回日本製鉄音楽賞受賞。江副記念リクルート財団第52回奨学生。使用楽器は宗次コレクションより貸与されたE.ロッカ1903年。

## 抗 ～強権体制下での密かな抵抗を聴く～

### ショスタコーヴィッチ チェロ協奏曲第2番 ト短調 op.126

ロシアの作曲家ショスタコーヴィッチ（1906-75）は、若き日にプロの音楽家としての道を目指して以降、ソビエト政権の下でその生涯を送った。またそのことが、彼の生涯に少なからぬ影響を及ぼすこととなった。

またそうした文脈で考えると、とある政治家の存在を抜きにしては、本日演奏される2曲を語れない。1953年から64年まで同国の最高指導者の地位にあったフルシチョフ（1894-1971）だ。彼の前任者であったスターリン（1878-1953）の政治姿勢を批判し、外交や内政に「雪解け」の時代をもたらす一方で、最終的には権力の一極集中化に突き進み失脚した複雑な政治家…。

そんなフルシチョフの失脚後、1966年に作曲され、ショスタコーヴィッチの60歳を祝う演奏会で初演されたのが、『チェロ協奏曲第2番』だ。といっても、この作品には誕生日祝いを彷彿させる輝かしさはほとんど聞かれない。当時のショスタコーヴィッチは、国家の誇る大作曲家としての名声を得る一方、重い心臓の病に悩まされ、さらにソ連そのものがフルシチョフの失脚により過去に逆戻りしたかのような閉塞感の中に置かれていた。

第1楽章はゆったりとしたテンポの中に（独奏者の腕前を披露することが目的であるはずの協奏曲において、こうしたテンポで曲そのものが始まること自体ぎょっとさせられる）独奏チェロが沈鬱な調べを奏で、オーケストラの重々しい響きがさらなる重苦しさを加える。第2楽章は少しだけテンポが速まるものの、そこで展開されるのはグロテスクな行進曲調の楽想だ。そしてそこから切れ目なく始まる第3楽章は、開始部分こそ華やかな、しかしこれまたグロテスクなまでに歪んだファンファーレで始まり、最後は様々な打楽器を交えつつ消え入るような響きの中にすべてが消えてゆく…。

### ショスタコーヴィッチ 交響曲第10番 ホ短調 op.93

このように、フルシチョフ時代の終焉を象徴するのが『チェロ協奏曲第2番』だとすれば、『交響曲第10番』は、フルシチョフ時代の幕開けである1953年に初演された。

実のところフルシチョフに先立つスターリンが敷いた恐怖政治の下、ショスタコーヴィッチは幾度となく政権から睨まれ、またその度に政権に迎合するような作品を発表することで生き延びていた。というわけでこの交響曲についても、スターリンの時代に密かに書き進められ、彼の死後によりやく発表できた、という見方もある。

いずれにしても、そうした「二枚舌」を使いながらショスタコーヴィッチが生きざるを得なかったことを考えながら、この交響曲に耳を傾けてみよう。するとそこには、それぞれの聴き手によって異なる、音楽を通じた彼のメッセージが聞こえてくるはずだ。

第1楽章の冒頭に低弦が暗示する2つの音型は、ドイツ語表記では「D-Es(S)-C-H」の最初の2文字。これはショスタコーヴィッチの名前 Dmitri Shostakovich を象徴し、彼自身が好んで、この交響曲を含む自作のそこかしこに採り入れた一種の暗号である。その一方で、第2楽章はスターリンを戯画化したといわれる大騒ぎが、第3楽章は彼が尊敬するマーラー（1860-1911）の曲を踏まえた死を思わせる楽想が登場。全曲の結論部分ともいえる第4楽章の最後は、第3楽章以降度々出現するようになる「D-Es(S)-C-H」の音型が現れ、異常なまでのハイテンションで締めくくられる。

## 〈アート〉と音楽 その①

埼玉県立新座総合技術高校の学生がデザインする表紙が、演奏会のプログラム表紙を飾る「日本フィルさいたま定期演奏会」。現在プログラムの他にロビーを彩る〈アート〉を制作中です。初公開は9月公演から！

これに先立ちまして2024シリーズのコラムでは、造形芸術と音楽との関係についてご紹介いたします。

### 消し去られた「前衛芸術」



『ピアニスト』リュボーフィ・ポポワ画 1914年

19世紀末から20世紀初頭のヨーロッパでは、「アヴァンギャルド」つまり「前衛芸術」が、若い世代を中心に爆発的な興隆を見せた。なぜか？それは19世紀の近代市民社会が、未曾有の発展と繁栄の陰で、公害、恐慌、格差といった様々な問題を抱えるようになっていたからだ。特にこの問題は、急速な近代化を推し進めたヨーロッパの端の国、つまりロシアでは深刻だった。まただからこそ、そうした矛盾を芸術の力で突き破るべく前衛芸術が興り、それはロシアにおいても「ロシアン・アヴァンギャルド」となって実を結ぶ。

しかもロシアの場合、1917年にロシア革命が起こり、裕福な市民を味方につけていた帝政が打倒された。そうなると、それまでは何かにつけ反抗者のように白眼視されてきた前衛芸術家たちは、逆に芸術を通じて新たな社会や国家を作るヒーローとして持て囃される。これからは躊躇なく、新たな芸術活動を繰り広げられる…。若き日のショスタコーヴィッチをはじめ、そんな夢が彼らの間に広がっていった。

だが、現実はそのようにはならなかった。とりわけ、ロシア革命の立役者ともいえるレーニン(1870-1924)が死去し、スターリンがその後継者となると、事態は徐々に変わってゆく。スターリンは、幅広い人民が国家への忠誠心を抱くことのできるような分かりやすい芸術こそが重要と考えた。となると、既成概念をぶち壊すような奇抜な発想や表現を旨とする前衛芸術は、好ましくない。というわけで、スターリンが政権を掌握してから数年後には、前衛芸術に対する厳しい弾圧がおこなわれるようになり、従わない者にはシベリア送りの恐怖が待ち受けることとなった。

そうした中で、若き日にはそれこそ前衛芸術家の1人だったショスタコーヴィッチは、ある意味の「転向」や「沈黙」を余儀なくされる。それはロシアで生活するかぎり、自分以上に、家族、親戚、友人、知人を護るために必要なことだった。そして幸か不幸かこの姿勢は、スターリンが死んだ後も、彼の作風を否応なく特徴づけるものとなっていった。

文章：小宮正安

## 第 143 回さいたま定期演奏会に寄せて

この度は第 143 回さいたま定期演奏会の開催を心よりお慶び申し上げます。

今回、ステージ左側には樹齢約 150 年の山紅葉（ヤマモミジ）を展示させて頂きました。本作は模様木という最も調和のとれた樹形に仕立てられ、八方に伸びた力強い粘りが見所でございます。今年も冬を越し、新芽が吹き、緑豊かな姿となってくれました。春の訪れと、四季の巡ってゆく様を感じさせてくれます。

右側には、樹齢約 200 年の真柏（シンバク）を展示させて頂きました。文人木という軽妙で飄々とした樹形に仕立てられ、独特な幹の捻転が見所でございます。幹にある白い部分（ジン、シャリ）は枯れており、まだ幹肌のある茶色い部分だけで水を吸い上げて生きています。少ない枝数で古木感が表現された逸品でございます。

オーケストラの演奏と、盆栽の景色の調和をお楽しみいただけましたら幸甚に存じます。

盆栽清香園 山田寅幸



## 清香園 history

江戸末期、庶民の文化としての園芸が花開いた時代、初代庄之助が現在の台東区根岸のあたりに創業いたしました。

清香園の屋号の由来は、梅の盆栽を多く手がけていたことから「清く香る園」といたしました。

二代目初五郎は、薄鉢で竹の盆栽を作ることを得意とし、三代目釜次郎は石付き盆栽を得意としました。この釜次郎の代で太平洋戦争の戦災を逃れて大宮の盆栽村に移住。現在は、四代目の登美男が園主で、盆栽種全般を扱っております。さいたま市北区の盆栽町（通称盆栽村）には毎日、海外からのお客様が訪れています。

## お客様に一番身近な「窓口」としての 専門店を目指して

盆栽園という枠組みに捉われず、  
お客様に寄り添う専門店を実現していきます。





日本フィルハーモニー交響楽団  
第144回さいたま定期演奏会

2024 7.6 SAT

指揮：鈴木優人 サクソフォン：上野耕平

曲目：トマジ／バラード＊  
ピアソラ／『エスクアロ（鮫）』＊  
『オブリビオン（忘却）』＊  
『リベルタンゴ』＊  
ベートーヴェン／交響曲第7番

©MARCO BORGGREVE

公演詳細




日本フィルハーモニー交響楽団  
第145回さいたま定期演奏会

2024 9.13 FRI

指揮：原田慶太楼 ヴァイオリン：辻彩奈

曲目：ジェニファー・ヒグドン／  
ファンファーレ・リトミコ  
モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲第4番  
ショスタコーヴィッチ／交響曲第5番「革命」

©MASATOSHI YAMASHIRO

©Makoto Kamiya

公演詳細




日本フィルハーモニー交響楽団  
第146回さいたま定期演奏会

2024 11.9 SAT

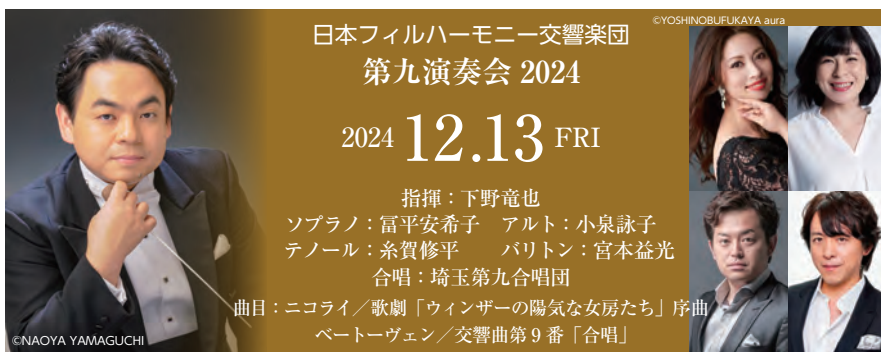
指揮：小林研一郎 ピアノ：小山実稚惠  
[桂冠名誉指揮者]

曲目：ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番  
リムスキー＝コルサコフ／  
交響組曲「シェヘラザード」

©MICHIKO YAMAMOTO

©HIDEAKI OTSUKA

公演詳細

日本フィルハーモニー交響楽団  
第九演奏会 2024

2024 12.13 FRI

指揮：下野竜也


ソプラノ：富平安希子 アルト：小泉詠子  
テノール：糸賀修平 バリトン：宮本益光  
合唱：埼玉第九合唱団

曲目：ニコライ／歌劇「ウインザーの陽気な女房たち」序曲  
ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱」

©NAOYA YAMAGUCHI

©YOSHINOBUJUKAYA aura

公演詳細







日本フィルハーモニー交響楽団  
第147回さいたま定期演奏会

2025 1.11 SAT

指揮：沼尻竜典 ヴァイオリン：三浦文彰

曲目：ブラームス／ヴァイオリン協奏曲  
ドヴォルジャーク／交響曲第9番「新世界より」

©RYOICHI ARATANI ©Yuji Hori

公演詳細




日本フィルハーモニー交響楽団  
第148回さいたま定期演奏会

2025 3.15 SAT

指揮：梅田俊明 バレエ：牧阿佐美バレエ団

曲目：プロコフィエフ／バレエ「ロミオとジュリエット」  
ソニックシティ特別版

©K.MIURA

公演詳細



## 会場：ソニックシティ大ホール

■ チケット価格 (単独券) 「第九」、「バレエ」公演の価格は通常公演とは異なります。

S：6,000円 A：4,500円 B：3,500円 Ys (19歳以下)：2,000円 (7.6/9.13/11.9/2025.1.11)

S：7,000円 A：5,500円 B：4,000円 Ys (19歳以下)：2,000円 (12.13/2025.3.15)

ホールメンバーズ、チョイス券など、各種割引あり。




RENAISSANCE CLASSICS

西本智実「ノスタルジー」  
with 三浦祐太郎  
—山口百恵名曲集—

2024年12月7日(土) 開場14時 開演15時 特製プログラム付 プラチナ：9,000円 ペアチケット17,000円 (全席指定)  
S：7,500円 ペアチケット14,000円 (全席指定)

会場：ソニックシティ 大ホール

【お問い合わせ・お申込み】 048-647-7722 (平日9時～17時)

【お問合せ】ソニックシティホールメンバーズ事務局 048-647-7722 (9:00~17:00 土日祝除く)

SONIC CITY

2024  
8月28日(水)

開場18:30/開演19:00

ソニックシティ小ホール



ソニック  
シティHP



チケットのお申込みは  
上記お問合せ又はこちら

全席指定¥4,500 (ホールメンバーズ会員¥4,000)

[会員先行発売] 5/14(火) [一般発売] 5/15(水)

- ネット予約のご利用には、初めに利用登録が必要です。●お申込みいただいたチケットの変更、キャンセルはできません。●未就学児のご入場はご遠慮ください。●開演時刻を過ぎますと、ご入場をお待ちいただく場合があります。

ソニックシティ  
初独演会へ  
ごぞいます！



©キッチンミノル

【主催】公益財団法人埼玉県産業文化センター 【後援】埼玉県、埼玉県教育委員会、さいたま市、さいたま市教育委員会



# 7月27日(土) 13:00 & 16:30 ソニックシティ

その他 東京芸術劇場、  
サントリーホール、  
ウェスタ川越等で開催！

## ～プログラム～

### 第1部

夏休みコンサート 50周年記念  
信長貴富：〈音楽のとびら〉  
～管弦楽のためのファンファーレ～  
アンダーソン：舞踏会の美女  
エルガー：愛のあいさつ  
ホルスト：惑星より 〈木星〉(夏休みコンサート版)

### 第2部

——パレエ (7/19-7/31) ——  
チャイコフスキー：パレエ 〈くるみ割り人形〉  
(夏休みコンサート 2024版)  
——わくわくピアノ (8/2-8/6) ——  
パッサ：メヌエット  
ショパン：幻想即興曲  
ドビュッシー：ゴリウオーグのケーキウォーク  
(「子供の領分」より)  
ガーシュウィン：ラプソディ・イン・ブルー

### 第3部

さんぽ ふるさと 勇気 100%

### 第2部 バレエ

指揮：梅田俊明 お話とうた：江原陽子  
パレエ：スターダンサーズ・バレエ団/バレエ演出・振付：鈴木稔  
7月19日(金) 14:00 相模女子大学グリーンホール  
7月20日(土) 13:00 & 17:00 東京芸術劇場  
7月21日(日) 13:00 & 16:30 サントリーホール  
7月25日(木) 14:00 松戸・森のホール 21  
7月27日(土) 13:00 & 16:30 ソニックシティ  
7月28日(日) 13:00 & 16:30 横浜みなとみらいホール  
7月30日(火) 14:00 ウェスタ川越 大ホール  
7月31日(水) 14:00 江戸川区総合文化センター

### 第2部 ピアノ

指揮：永峰大輔 お話とうた：江原陽子 ピアノ：上原彩子  
8月2日(金) 13:00 & 16:30 サントリーホール  
8月3日(土) 13:00 & 16:30 横浜みなとみらいホール  
8月6日(火) 13:00 & 17:00 東京芸術劇場

### 料金 [全席指定・消費税込]

S 席：子供 3,400円/大人 5,600円  
A 席：子供 2,700円/大人 4,600円  
B 席：子供 2,000円/大人 3,600円

※子供＝4歳～高校生 ※4歳未満は入場できません。  
チケットはお一人一枚ご利用ください。  
★演奏時間は休憩を含めて約1時間50分です。

好評  
発売中!

【お申込み】日本フィル・サービスセンター

TEL：03-5378-5911 (平日 10時-17時) eチケット♪ <https://eticket.japanphil.or.jp>

# 世界が認めた光学技術

タムロンは、あらゆる分野の光学製品を開発・製造する総合光学機器メーカーです。その中でも、ミラーレスカメラ／デジタル一眼レフカメラ用交換レンズは、独創的な仕様、優れた描写力、画期的なコンパクト設計、操作性の良いデザインにより、世界中で高く評価されています。

私たちはこれからも、独自の先端光学技術により、さまざまな事業分野における製品を通じて、社会の感動と安心を創造してまいります。



## 主な取扱い製品

ミラーレスカメラ用交換レンズ、一眼レフカメラ用交換レンズ、監視カメラ用レンズ、FA/マシンビジョン用レンズ、TV会議用レンズ、カメラモジュール、車載用レンズ、コンパクトデジタルカメラ用レンズ、ビデオカメラ用レンズ、ドローン用レンズ、医療用レンズ 他



株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地

<https://www.tamron.com/jp/>

**TAMRON**  
Focus on the Future